小児歯科学専門用語集

第2版

公益社団法人
日本小児歯科学会　編

Pediatric Dentistry Glossary 2019

The Japanese Society of Pediatric Dentistry

医歯薬出版株式会社

あ

1 Ar〔セファロ分析の〕あーてぃきゅらーれ
Articulare

アーティキュラーレ．頭部エックス線規格写真における下顎枝（下顎関節突起）後縁と外頭蓋底（後頭骨基底部下縁）との交点をいう．

2 IQ あいきゅー →知能指数（820）

3 アクチバトール あくちばとーる
activator

アクチベータ，FKO ともよばれ，正常な筋機能が正しい歯列咬合発達を導くという考えのもとに考案された装置である．構造は金属の誘導線とレジン床からなる．構成咬合を採得して製作された装置を口腔内に装着することにより，咀嚼筋や口腔周囲筋の機能を賦活化させ，それを矯正力に変えて歯や下顎骨の移動および顎関節部の骨改造を期待する．

4 Adams のクラスプ あだむすのくらすぷ
Adams clasp

Schwartz のクラスプを改良して Adams が考案したワイヤークラスプで，2 つのアローヘッドとバーから構成される．維持力が強く，孤立歯や萌出が不十分な歯にも適応ができるほか，特別なプライヤーを必要とせず，清掃性もよいなど利点が多い．

5 アデノイド顔貌 あでのいどがんぼう
adenoid face

アデノイド肥大が著しく，鼻閉塞を生じ，正常な鼻呼吸が障害されるために生じる特有の顔貌．代償的に口呼吸を余儀なくされ，自然な状態で口唇が閉じず，顔面筋の緊張が弱いため，間延びした顔貌を示す．

6 アトピー性皮膚炎 あとぴーせいひふえん
atopic dermatitis

湿疹とかゆみをともない，慢性的経過を特徴とする皮膚病変．特定部位（顔，手首など）に発症しやすい．アレルギー体質の小児に多いが，成人にもみられる．発症機序として，特定の食物，ハウスダストおよびダニなどに対するアレルギー反応が考えられている．治療としては食餌療法，原因物質の除去による生活環境の改善および薬物療法（ステロイド外用薬や抗ヒスタミン薬）がある．

7 アナフィラキシーショック
あなふぃらきしーしょっく
anaphylactic shock

Ⅰ型アレルギーの重症な全身反応である．IgE によって媒介される抗原刺激が標的細胞（肥満細胞）からの化学伝達物質の放出をもたらして，ショック状態をきたすもの．通常，抗原刺激から 30 分以内に口腔，口唇，顔面のしびれ，咽喉頭部の違和感，胸部圧迫感，心悸亢進，熱感あるいは冷汗などがみられ，さらに進んで顔面蒼白，脈波微弱，血圧低下，意識レベルの低下などがみられ，最悪の場合，死にいたることがある．

8 アフタ性口内炎 あふたせいこうないえん
aphthous stomatitis

口腔内に 1 個から数個の小潰瘍を生じる炎症性病変．ウイルス性疾患によるものが多く，口唇，頰，舌，歯肉，口蓋の粘膜に表在性に腫脹，発赤を生じる．周囲に紅暈を有する類円形の有痛性の小潰瘍で，潰瘍表面は灰白色の線維素性偽膜で被覆されている．1～2 週間で治癒するが，再発を繰り返すことが少なくない．

9 アベイラブルアーチレングス
あべいらぶるあーちれんぐす
available arch length

第一大臼歯間に必要な歯が排列できる歯列弓長径（歯槽基底長）．有効歯列弓長ともいう．

10 Apert 症候群 あぺーるしょうこうぐん
Apert syndrome

同義語 尖頭合指症Ⅰ型，短頭合指症Ⅰ型

先天性頭蓋骨癒合による尖頭（塔状頭蓋）と高度な合指趾，手・足・頸椎の骨癒合を示す遺伝性の先天奇形症候群である．知能は一般に正常である．遺伝様式は常染色体優性で新生突然変異とされている．頭部の所見は，冠状縫合の早期癒合により尖頭となり，頭蓋内圧は慢性的に高い．顔面の所見は，眼間開離，眼球突出，浅い眼窩，耳介低位，上顎骨低成長による反対咬合，狭口蓋がみられる．

11 アペキシフィケーション あぺきしふぃけーしょん
apexification

感染根管となった歯根未完成歯，あるいは抜髄法により歯根部歯髄のすべてを除去された歯根未完成歯に対して，水酸化カルシウム製剤による根管充塡を行うと，根管充塡材直下の根尖組織に歯周組織由来の硬組織が形成され，根尖部の硬組織性閉鎖が生じる．本来はこの治癒機転をアペキシフィケーションとよぶが，現在では，このような術式そのものをさすことが多い．

12 アペキソゲネーシス あぺきそげねーしす
apexogenesis

水酸化カルシウム製剤による生活歯髄切断法を施した歯根未完成歯においては，まず切断面にデンティンブリッジが形成される．ついで根管壁に配列する象牙芽細胞によって根管壁に象牙質の新生・添加が生じ，生活歯における生理的歯根形成と同様な経過をたどって，歯根が完成する．このような生活歯髄切断法後の歯根未完成歯の生理的歯根形成機転をアペキソゲネーシスとよぶ．

か

116 灰褐色歯 かいかっしょくし
gray-brown teeth
歯の着色は，歯の形成中の沈着，歯質の形成不全，歯髄内の出血や歯髄壊死，金属などの外因などによって生じるが，その程度によってさまざまな色調を呈する．灰褐色はおおむね中等度の着色の表現として用いられる．

117 壊血病 かいけつびょう
scurvy
ビタミンC欠乏症ともいう．ビタミンCの欠乏によるコラーゲン形成の障害にともなう出血傾向を主症状とする．徐々に発症し，全身倦怠，脱力，食欲不振などのほかに，皮膚乾燥，毛嚢角化およびその周囲の紫斑状出血が起こる．

118 開咬 かいこう
open bite
上下顎歯列弓の垂直的咬合関係の異常で，咬頭嵌合位において前歯部や臼歯部の上下顎歯の間に空隙のある状態をいう．原因は種々あるが習癖との関係が多く，その他に顎，歯列弓の形態異常，内分泌異常があげられる．

119 開口器 かいこうき
mouth gag
顎間に挿入し，顎を一定の開口位に保持させる器具．抑制的対応時や患者が長時間開口を保持できない場合などに用いる．開口器の種類には，バイトブロック，ホワイトヘッドエニングス開口器，ハイステル開口器，万能開口器などがある．

120 開口障害 かいこうしょうがい
trismus
開口時の顎運動に制限があることをいう．顎関節，顎骨，筋肉，口腔軟組織，神経（中枢性のものを含む）などに発生した各種の異常が原因となりうる．小児では，顎骨骨膜炎や急性限局性口腔底炎において炎症が咀嚼筋に波及したとき，顎関節症で関節円板の干渉があるとき，筋性の開口制限があるときなどに起こることが多い．

121 開始期 かいしき
initiation stage
種々の歯は，ある一定の時期に発生を開始する．開始期では，上皮と外胚葉性間葉との相互作用により，口腔上皮の一部が肥厚し歯堤とよばれる組織を形成する．歯原性上皮細胞は歯堤に沿って一定の部位でおのおのの乳歯の位置を規定しながら急速に増殖し，それぞれがその下層にある間葉のなかへと増殖することで歯胚が形成される．

122 外傷歯 がいしょうし
traumatized tooth
機械的な外力により損傷を受けた歯のこと．歯の外傷は，破折性外傷と脱臼性外傷の2つに大別できる．破折性外傷は硬組織の損傷をさし，エナメル質の亀裂，歯冠破折，歯冠-歯根破折，歯根破折に細分類される．脱臼性外傷は歯根膜の損傷をさし，振盪・亜脱臼，挺出，転位（側方性脱臼），脱離，陥入（埋入）に細分類される．

123 外傷性歯肉炎 がいしょうせいしにくえん
traumatic gingivitis
不正咬合，外傷性咬合など過度な咬合力によって引き起こされる歯肉炎である．歯肉が腫脹，発赤し，ブラッシング時に出血がみられる．重症の場合は，歯の動揺と歯肉の退縮が起こり，歯槽骨の吸収がみられる．混合歯列期において切端咬合や反対咬合の下顎前歯では歯肉退縮を生じやすいため，咬合誘導により不正咬合を改善する必要がある．

124 外歯瘻 がいしろう
external dental fistula
齲蝕に継発する根尖病巣や辺縁性歯周炎などの化膿性疾患によって膿瘍を形成し，切開または自壊によって膿の排膿路として瘻が形成される歯瘻のうち，瘻孔が口腔外にあるものを外歯瘻という．瘻孔が口腔にあるものは内歯瘻という．その発生部位により頰瘻，オトガイ瘻，眼角瘻などとよばれる．→歯瘻（618），内歯瘻（891），瘻孔（1185）

125 開窓術〔歯の〕かいそうじゅつ
fenestration
歯の萌出遅延症例に対して，歯冠上部歯肉を切除し，歯冠を露出させることにより当該歯の萌出を促す術式をいう．

126 回転〔歯軸の〕かいてん
rotation
歯の萌出異常の1つ．萌出部位や萌出方向の異常ではなく，長軸の捻転した歯をいう．

127 外胚葉 がいはいよう
ectoderm
受精卵の発生が進んだ初期胚の段階で現れる三胚葉のうち，外側に現れるものをいう．外胚葉由来の細胞には，神経細胞や表皮細胞がある．表皮や髪，エナメル質などが形成される．→中胚葉（829），内胚葉（893）

128 外胚葉異形成症 がいはいよういけいせいしょう
ectodermal dysplasia
いくつかの型があり，なかでもX染色体連鎖無汗型外胚葉異形成症がもっとも一般的で，男性にのみ現れ，多数歯の先天性欠如を呈する．常染色体優性の型では男女に同じように現れ，症状はX染色

445 細胞内液 さいぼうないえき
intracellular fluid
細胞は周囲を脂質とタンパク質とで構成されている細胞膜によって囲まれており，細胞内部を満たしている液を細胞内液といい，全体液量の約40%を占める．電解質に関しては，一般的に細胞内液は低濃度のNa^+と高濃度のK^+を含むが，細胞外液は逆に高濃度のNa^+と低濃度のK^+を含む．また細胞外液は高濃度のCl^-を含むが，細胞内液のCl^-濃度は低い．Ca^{2+}，Mg^{2+}濃度は神経線維では内液が外液に比べて濃度は低いが，筋細胞では逆である．

446 細網内皮症 さいもうないひしょう
reticulosis
細網内皮系細胞の異常増殖性疾患の総称で，先天性代謝異常疾患である脂質蓄積症にともなって起こるものと原因不明の組織球の増殖と肉芽腫形成を特徴とするものがある．細網内皮症の多くが後者であり，Langerhans細胞組織球症とよばれている．
→Langerhans細胞組織球症（1157）

447 作業模型 さぎょうもけい
working model
間接法で技工物をつくる場合の模型．技工物により，適切な模型と印象材，印象方法を選択し，模型の精度，隣在歯，対合歯などの接触咬合関係の再現性が必要となる．

448 鎖骨頭蓋異形成症 さこつとうがいいけいせいしょう
cleidocranial dysostosis
鎖骨の欠損または形成不全，頭蓋骨の縫合部の骨化遅延ならびに歯の萌出遅延を特徴とする先天性骨疾患である．多くは常染色体優性遺伝による．低身長で，鎖骨は全欠損ないし部分欠損であるが，骨化不全のみのこともある．一般に知能は正常であり日常生活に支障はない．口腔所見として上顎骨の発育不全にもとづく反対咬合を呈するほか，乳歯の晩期残存，多数の過剰歯，ならびに永久歯の萌出遅延がみられる．

449 刷掃指導 さっそうしどう
tooth-brushing instruction
歯ブラシやその他の補助器具を用いて，プラークコントロールを行う方法を指導することをいう．齲蝕予防のためには，プラークコントロールは必須であり，各個人に適した指導が必要である．とくに，年齢に応じて口腔内の環境が変化する時期の小児の保護者には，その環境を考慮した指導が必要である．

450 酸エッチング法 さんえっちんぐほう
acid-etch technique
接着性レジンを用いる場合に，レジンの維持をよくするために歯面に酸性溶液を塗布し，エナメル質表面を脱灰させる術式である．

451 酸化亜鉛ユージノールセメント さんかあえんゆーじのーるせめんと
zinc oxide eugenol cement
酸化亜鉛とチョウジ油の主成分であるユージノールを練和して硬化させるセメント．良好な鎮痛効果，防腐作用，辺縁封鎖性があり，歯髄鎮静剤，覆髄剤，暫間充塡・仮封材，根管充塡材，仮着材，歯周包塡（パック）および印象材として応用されている．ほかの充塡材料と比較すると，強度，耐摩耗性，溶解性で劣る反面，熱伝導率，硬化時収縮，微少漏洩は少ない．

452 暫間固定 ざんかんこてい
temporary fixation
歯の外傷や歯周疾患で，動揺する歯を安定させるために用いる応急的な仮の固定をいう．

453 暫間修復 ざんかんしゅうふく
temporary restoration
永久的な修復効果を必要としない修復や期待しない修復をいう．交換期の近い乳歯や長期保存が見込まれない歯などの修復に行われる．また，歯髄の臨床症状改善を期待して一定期間行う症例も含まれる．リン酸亜鉛セメント，カルボキシレートセメント，酸化亜鉛ユージノールセメントなどがそれぞれの目的に応じて選択され，使用される．

454 暫間的間接覆髄法 ざんかんてきかんせつふくずいほう
indirect pulp capping，gross caries removal procedure
深在性齲蝕に罹患しているが，齲窩と歯髄腔の間には一層の健全象牙質が存在する齲蝕患歯に適応される歯髄保護の処置法．齲蝕象牙質の完全除去を行う際に，露髄の危険性が高い髄角付近の齲蝕象牙質を意図的に残置させ，その上に覆髄剤を貼薬して暫間的に修復する．覆髄剤の作用によって残置した齲蝕象牙質の再石灰化と直下の髄腔壁での修復象牙質の新生，添加を促し，窩底象牙質厚径の増加をはかる．数か月後，再度齲窩を開放し，再石灰化されていない齲蝕象牙質の除去を行い，最終的な修復処置を行う．本法の応用で，生活歯髄に直接手をつけずに処置ができる．本法は，歯髄の生活力が旺盛な乳歯や幼若永久歯に対して応用頻度が高い．間接覆髄法との違いに注意．→間接覆髄法（208）

455 暫間的根管充塡 ざんかんてきこんかんじゅうてん
temporary root canal filling
根管充塡を行った歯で，術後に打診違和感や疼痛などの歯根膜炎症状が発現することがあるため，根管充塡後ただちに修復処置を施さずに，予後経過をみるために一時的に根管充塡を施すこと．

したワイヤーをバンドにろう着した構造となっている．両装置とも傾斜移動を主体とした緩徐な拡大を行う．一方，固定式拡大装置のスケルトン型は正中口蓋縫合の拡大を目的とした整形外科的な効果を期待して行う方法である．

767 側方歯群 そくほうしぐん
lateral teeth
側切歯と第一大臼歯に挟まれた部分にある歯のことで，乳歯では，乳犬歯，第一乳臼歯，第二乳臼歯の3歯種を，永久歯では，犬歯，第一小臼歯，第二小臼歯の3歯種をいう．側方歯群の交換に際しては，乳歯側方歯群と永久歯側方歯群の歯冠近遠心幅径総和の差であるリーウェイスペースが第一大臼歯の咬合の調整に関与する．

768 側貌頭部エックス線規格写真
そくぼうとうぶえっくすせんきかくしゃしん
→側面頭部エックス線規格写真（769）

769 側面頭部エックス線規格写真
そくめんとうぶえっくすせんきかくしゃしん
lateral x-ray cephalogram
同義語 側貌頭部エックス線規格写真
頭部エックス線規格写真のうち，頭部固定位置により側貌位で撮影したもの．→頭部エックス線規格写真（885）

770 組織分化期 そしきぶんかき
histodifferentiation stage
歯胚の増殖期に引き続いて組織分化が起こる．増殖期に間葉へと陥入しながら，歯胚の形態を獲得した細胞は，その細胞の将来が規定される．上皮組織において，歯乳頭に接する側の細胞は内エナメル上皮とよばれ，この時期にエナメル芽細胞に分化し，内エナメル上皮と接する歯乳頭側の細胞は，象牙芽細胞へと分化する．

771 咀嚼 そしゃく
mastication
食物を摂取した後，これを食塊にして嚥下するまでに口腔，咽頭中で行われる生理的過程をいう．咀嚼を行う意義は，①食物を咬断・粉砕・臼磨し，食塊を形成して嚥下しやすくする，②味覚を刺激して唾液や消化液の分泌を促進し，消化管における食物の消化・吸収を助ける，③口腔諸組織の血流を増加させてその健康を保持し，これらの組織の生理的発育を促進する，④食物を咀嚼することによる心理的な満足感を満たすことなどがあげられる．

772 咀嚼機能 そしゃくきのう
masticatory function
乳前歯が萌出しはじめる生後6か月ころから発達しはじめ，乳臼歯の萌出が完了する1～3歳で一応完成される．この期間内には離乳期が含まれるが，離乳は単に乳から離れさせるというものではなく，液体食から流動食，流動食から軟食，軟食から普通食へと段階を追って咀嚼機能を発達させるという意味が含まれている．つまり，離乳期は咀嚼の学習期となるため，離乳の仕方によって咀嚼機能の発達は大きく左右される．

773 咀嚼障害 そしゃくしょうがい
masticatory disturbance
齲蝕や歯周病によって歯を失うと，隣在歯の移動や咬合干渉（咬み合わせの不調和）が起こり，残存歯はさらに歯周病や齲蝕が悪化し，さらなる歯の喪失を招くという悪循環が発生する．その結果，咀嚼障害が生じる．咀嚼障害の原因としては，①歯の喪失，②口腔外科疾患，③顎関節・咀嚼筋の障害，④唾液分泌の異常，⑤口腔内感覚の異常，があげられる．

774 染め出し液 そめだしえき
disclosing solution
歯表面への歯垢の付着状況を検査するための溶液で，錠剤のものも販売されている．ブラッシングが適切に行われているかを患者自身が確認でき，口腔清掃指導上の動機づけに有効である．

た

775 Turner 歯 たーなーし
Turner tooth
永久歯の形成期にその先行乳歯に根尖性歯周炎が生じると永久歯の歯質に形成不全を起こすことがある．これを Turner 歯とよぶ．障害状態は炎症の程度や範囲，その影響を受けた時期により異なり，エナメル質の白斑や黄褐色の変色にとどまるものから，象牙質の形成不全をともなうものまで種々の症状を呈する．

776 Turner 症候群 たーなーしょうこうぐん
Turner syndrome
X染色体の欠損（45，X）に起因する．女児100～2,000人に1人の頻度．低身長，性機能不全による無月経，外表奇形を3徴候とする．糖尿病，高血圧，心，血管系の奇形がある．低身長，短頸，翼状頸，外反肘などの身体所見を呈する．口腔所見は高口蓋，口蓋裂，上顎歯列弓の狭窄，歯列弓と歯の大きさの不調和，下顎骨の短縮，歯の萌出が早いなどの報告がある．

777 ターミナルプレーン たーみなるぷれーん
terminal plane
乳歯列が中心咬合位にあるときの上下顎第二乳臼歯の遠心面の近遠心的位置関係を表したもので，乳歯列の咬合評価に使用される．ターミナルプレーンには，垂直型，近心階段型，遠心階段型の3つの型

887 特異体質 とくいたいしつ
idiosyncrasy
薬物に対してアレルギー反応に似た反応や症状を示すが，免疫学的反応によらないことがあり，このような反応が生体に起こる素因をいう．

888 特異的学習症 とくいてきがくしゅうしょう
→学習障害（160）

889 突発性発疹 とっぱつせいほっしん
idiopathic eruption
数日間の高熱後，全身にピンクないし紅色の斑状丘疹が出現するウイルス性疾患．発疹は1〜2日で消失する．原因はおもにヒト疱疹ウイルス-6（HHV-6）で，乳児に多い．治療は対症療法で予後良好であるが，脳炎などをともなうこともある．

890 Treacher Collins 症候群
とりーちゃーこりんずしょうこうぐん
Treacher Collins syndrome
同義語 下顎顔面異骨症
常染色体優性遺伝疾患である．第一鰓弓，第二鰓弓由来の組織・器官の発育不全で，頬骨や下顎の形成不全による小下顎，外側ほど下がる眼裂，虹彩一部欠損，難聴，下睫毛の欠損，耳介奇形，巨口症，口蓋裂，歯列不正などがみられる．

な

891 内歯瘻 ないしろう
internal dental fistula
齲蝕に継発する根尖性歯周炎（根尖病巣）や辺縁性歯周炎化膿によって膿瘍を形成し，切開または自壊によって膿の排膿路として瘻が形成される歯瘻のうち，瘻孔が口腔内にあるものをいう．口腔外に瘻孔がみられる外歯瘻に対する用語として用いられる．発生部位は上下顎とも，頬側歯肉に形成されることが多い．→瘻孔（1185），歯瘻（618），外歯瘻（124）

892 内側鼻突起 ないそくびとっき
medial nasal process
鼻と上唇の内側部，上顎の前部および一次口蓋を形成する．胎生4週後半において前頭鼻突起（隆起）のうち鼻板とよばれる部分が口窩の上外側に形成される．鼻板の周縁では間葉が増殖して，内側に内側鼻突起，外側に外側鼻突起が形成される．胎生6〜7週に左右の内側鼻突起と上顎突起が癒合することによって上唇の基礎が形成される．

893 内胚葉 ないはいよう
endoderm
発生の過程でみられる三胚葉の1つで，もっとも内方または下方に位置するものをいい，その他の部分は外胚葉，中胚葉になる．一般に内胚葉は原腸形成によって外胚葉から分かれ，原腸壁の全部または一部を構成する．内胚葉からは消化管およびその付属腺としての肝臓・膵臓や，胸腺・甲状腺，気管・肺などが形成される．→外胚葉（127），中胚葉（829）

894 内部吸収 ないぶきゅうしゅう
internal resorption
象牙質の歯髄側からの吸収のことをいう．生活歯髄切断法の予後不良例や外傷の予後観察中にみられることがある．また，歯冠の一部がピンク色に変化する場合があり（ピンクスポット），エックス線写真で内部吸収が認められる症例があるが，原因は特定されていない．乳歯の生理的歯根吸収後期から脱落期にも歯冠の内部吸収が認められる．

895 内分泌障害 ないぶんぴつしょうがい
endocrinism
ホルモンをつくる内分泌臓器の障害により，ホルモン分泌の異常（増加または低下）を生じた状態か，あるいはそのホルモンが作用する対象臓器の異常（ホルモン受容体やホルモン情報の障害）により，ホルモン作用に異常が起きた状態をいう．

896 長さ的計測法 ながさてきけいそくほう
dimensional analysis
同義語 長さ的分析法
側面頭部エックス線規格写真における顎顔面頭蓋の形態的評価では，設定した各点をもとに角度的計測や長さ的計測（距離的計測）が行われる．長さ的計測では設定した2点間距離の実長を計測する場合と，基準平面あるいはこれに平行もしくは直交する座標軸（直線）に投影された距離を計測する場合とがある．座標の設定ではSを基準点にフランクフルト平面に平行となる直交座標や，Sを基準点にS-N平面およびそれに直交する座標で計測する方法がある．これらの距離的計測から関連ある部位間での計測値の比率を求める方法もある．

897 長さ的分析法 ながさてきぶんせきほう
→長さ的計測法（896）

898 泣き なき
crying
情動の分化および言語知能の発達と関連する．乳児期には，生後すぐより不快に対して，6か月ころより恐れに，7〜8か月ころには見知らぬ人に対して泣くことで感情を表出する．さらに増齢的に，嫉妬，羞恥心，困惑などの複雑な感情から泣き，不快な状態から脱却したいと表現する．心身の発達により，自分の要求を言葉で表現して目的を達成しようとするが，成人しても，うれし泣きなどのように，言語などの表現より，感情の表現が優先する場合がある．診療室における小児の泣きには，疼痛，恐怖や不安，甘えの原因があり，それを理解して原因を